

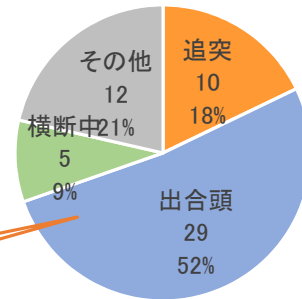
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



▲4年間の事故発生状況 (H26～H29)

自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
（具体的には）
- ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
- ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
- ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)～9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

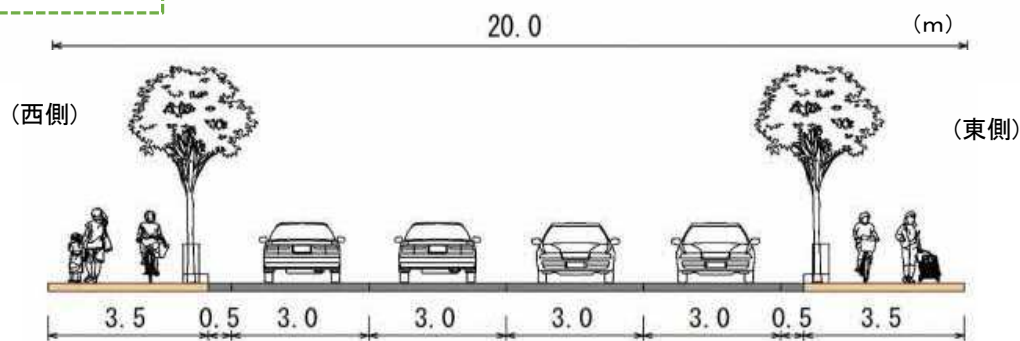
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

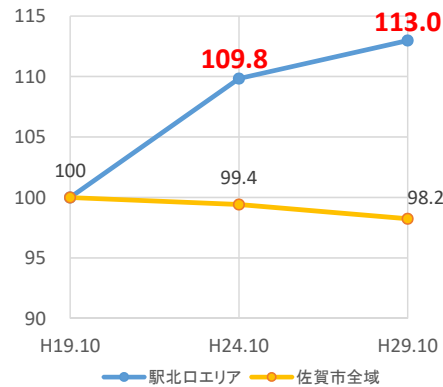
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

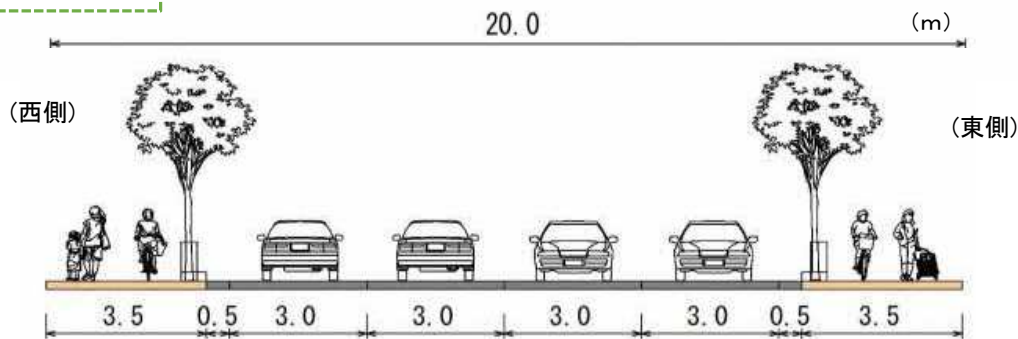
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

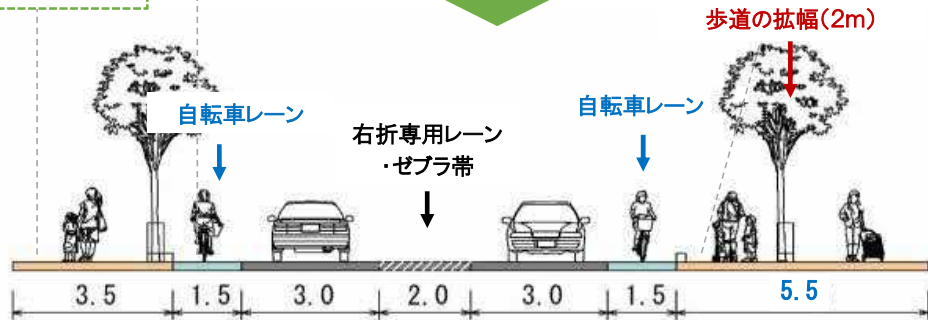
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

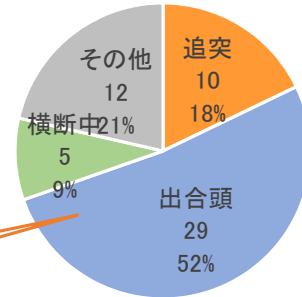
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

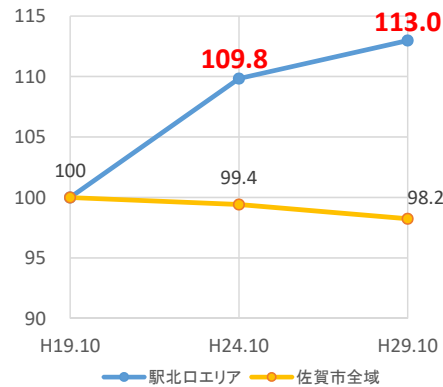
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

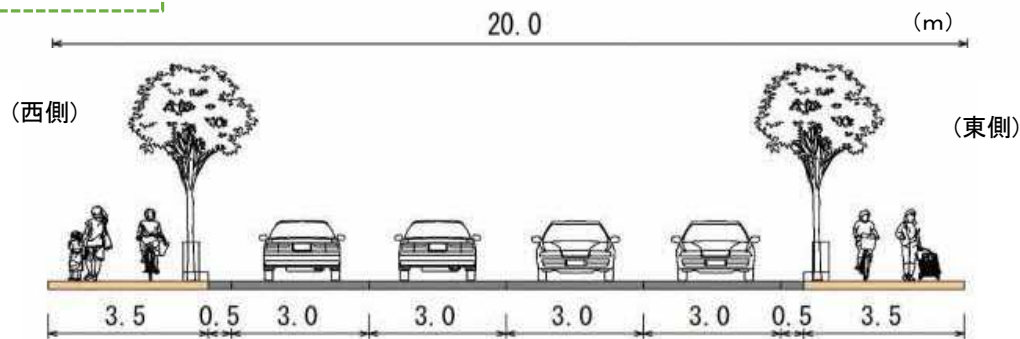
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

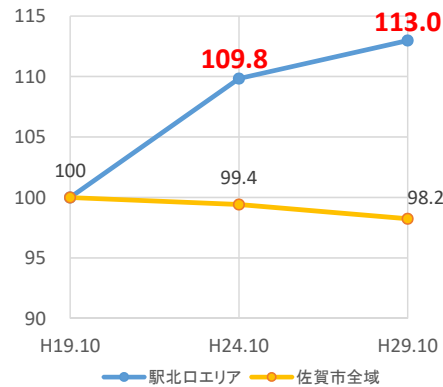
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

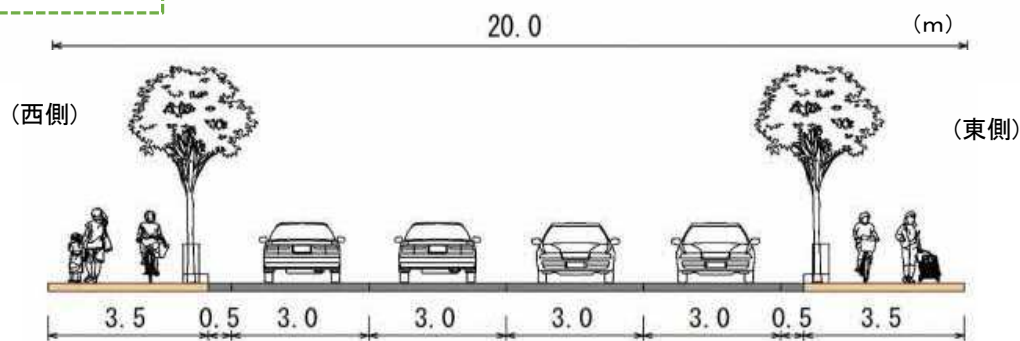
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

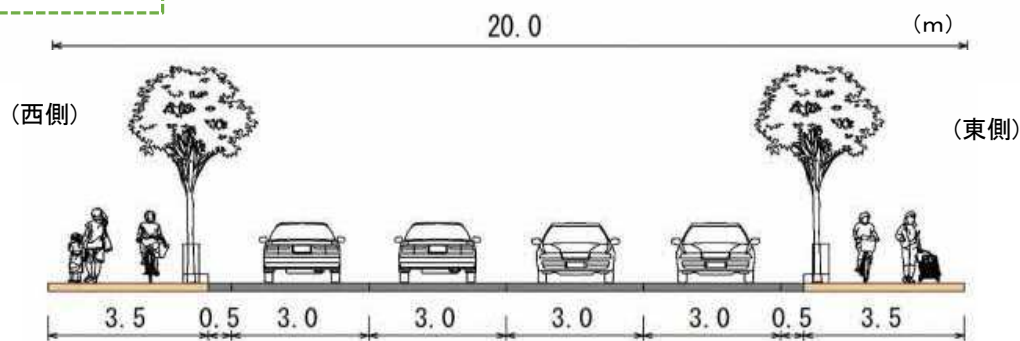
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

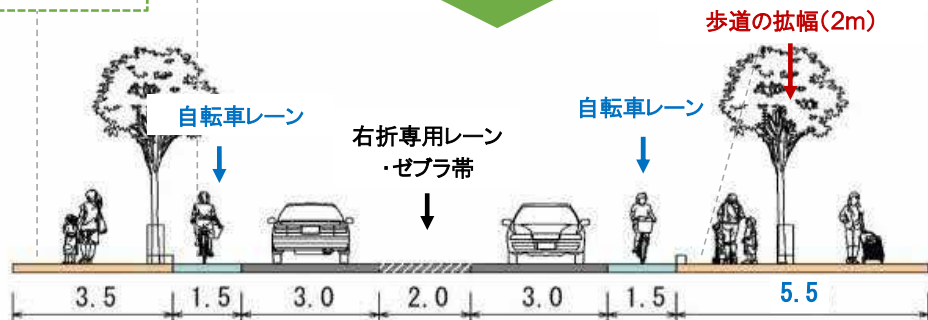
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

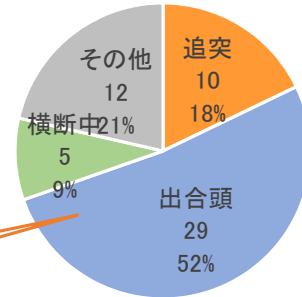
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

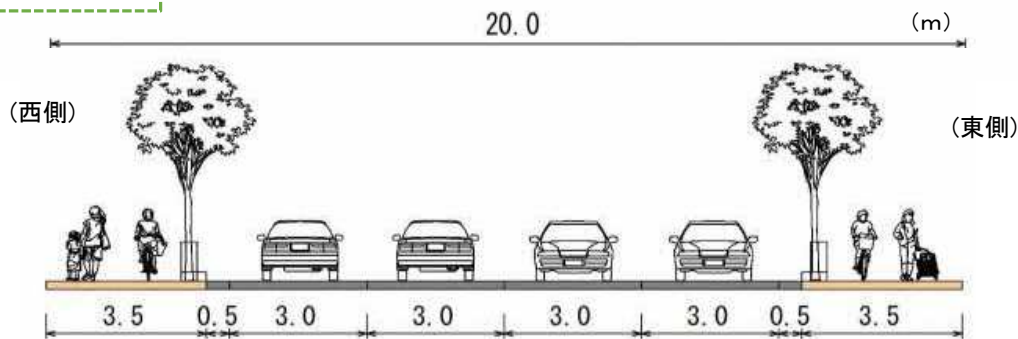
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

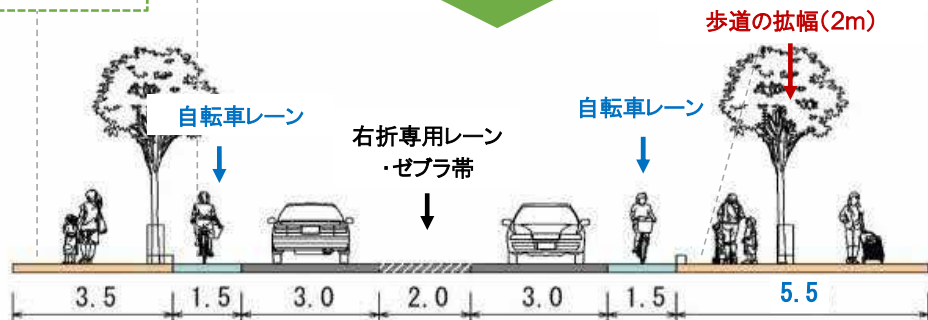
2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

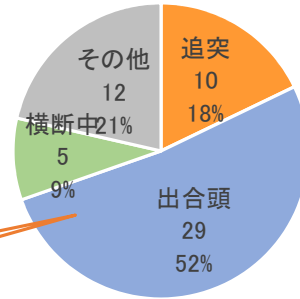
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

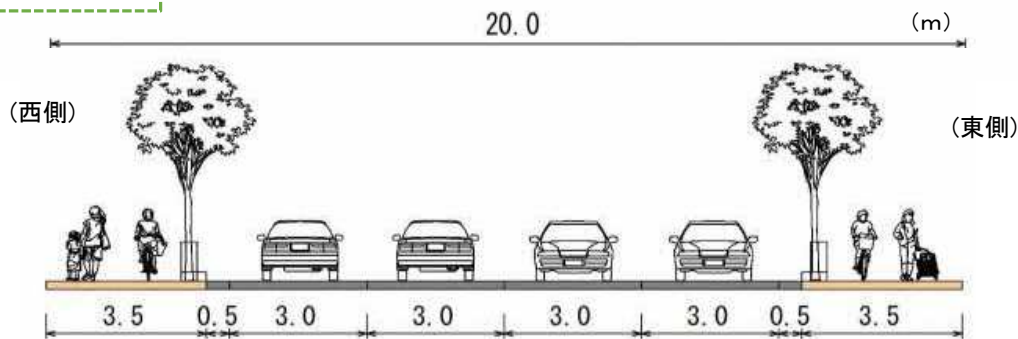
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

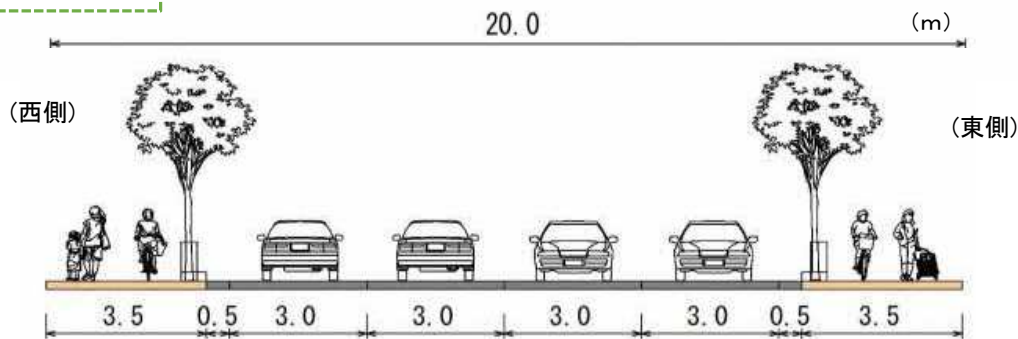
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

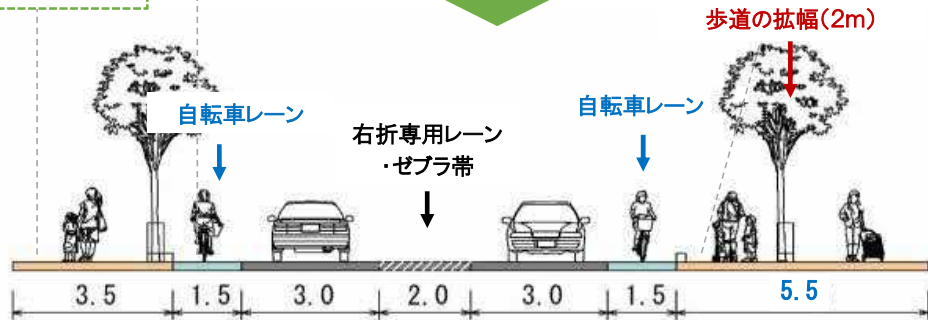
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

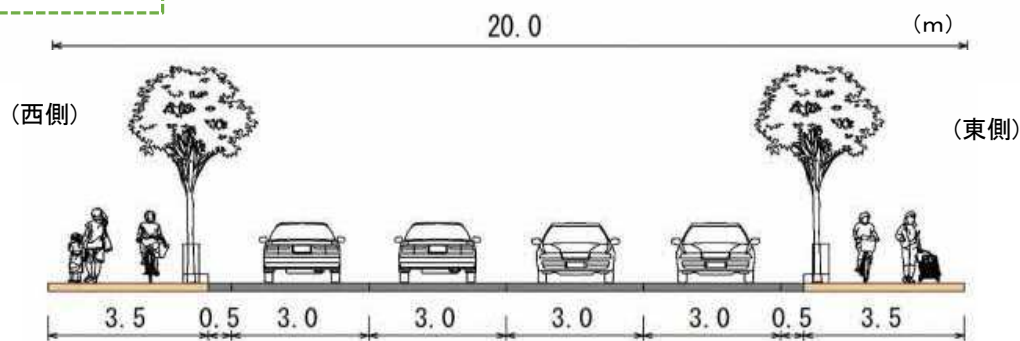
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

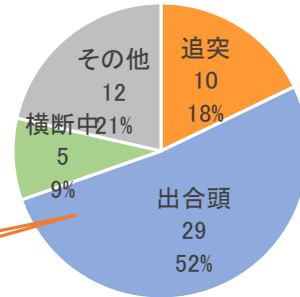
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

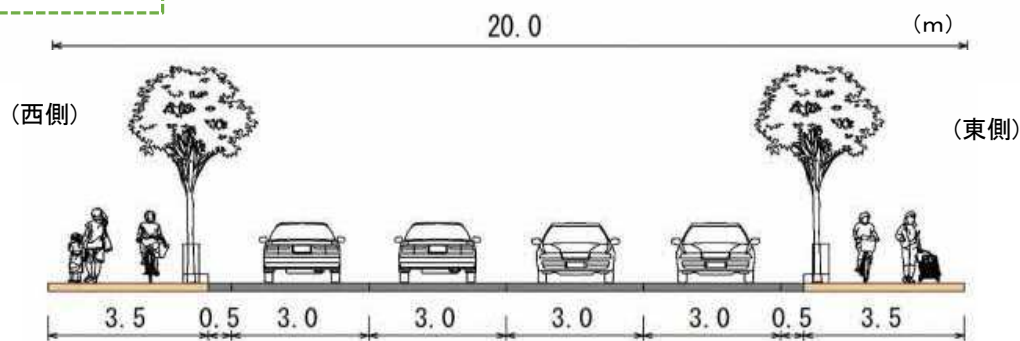
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

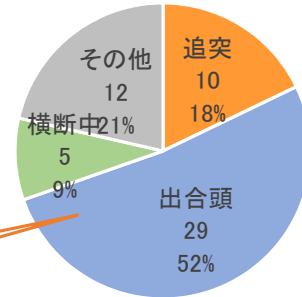
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

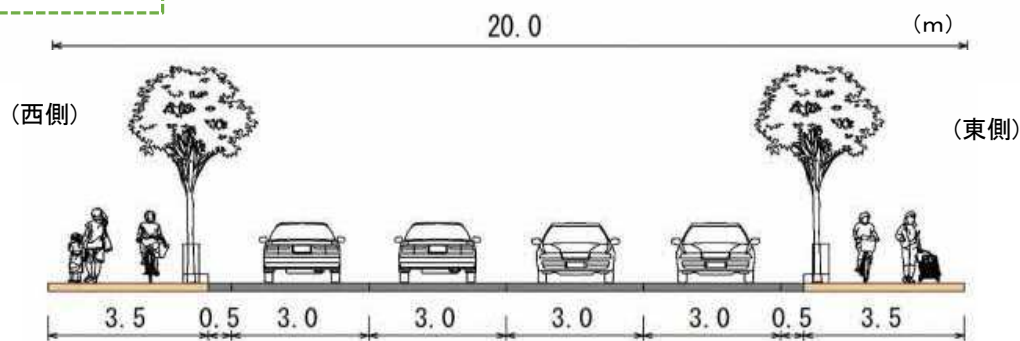
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

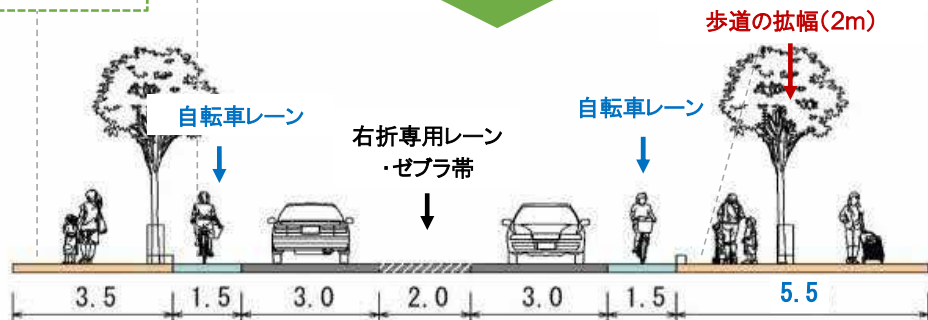
2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

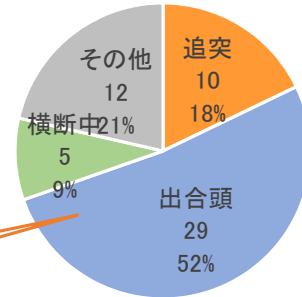
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

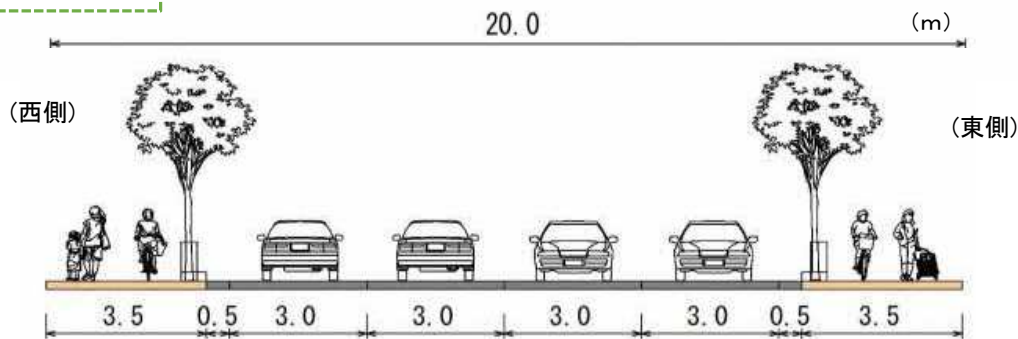
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

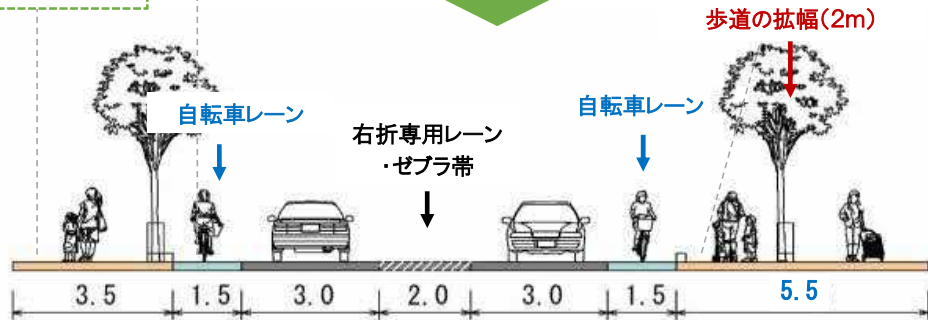
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

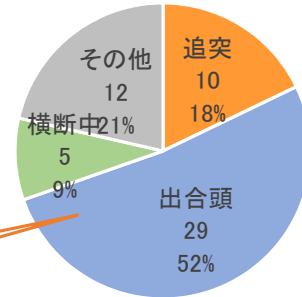
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

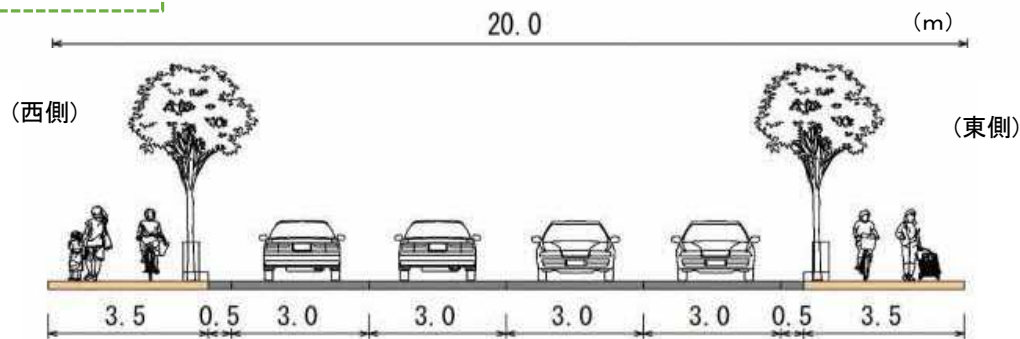
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

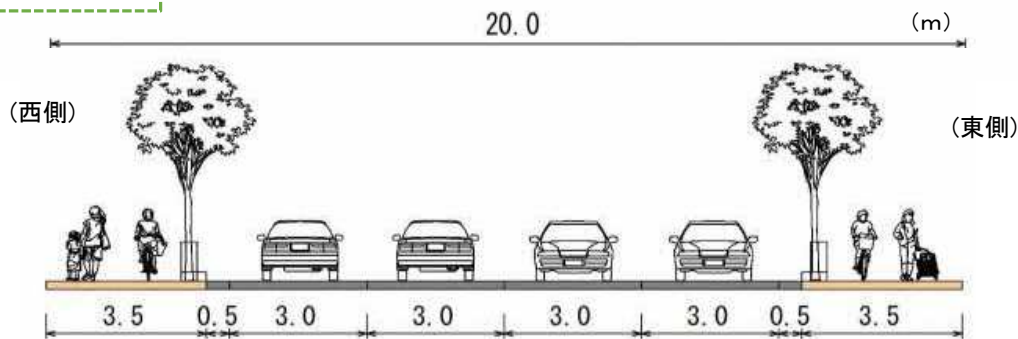
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

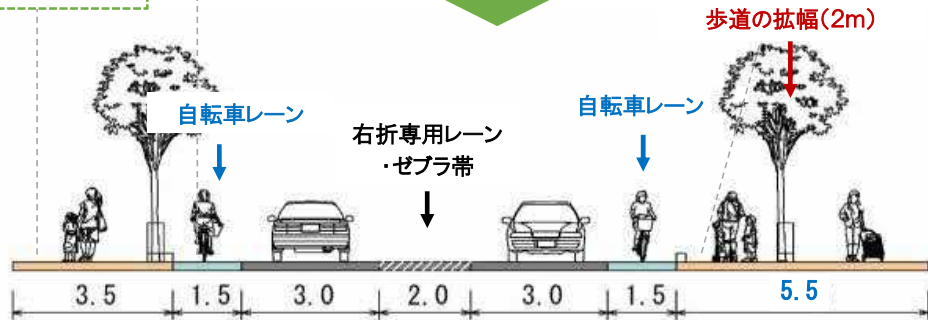
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

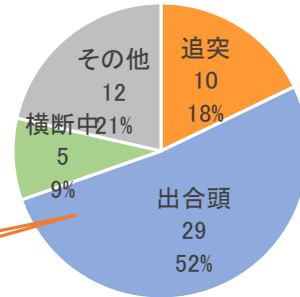
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



▲4年間の事故発生状況 (H26~H29)

自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

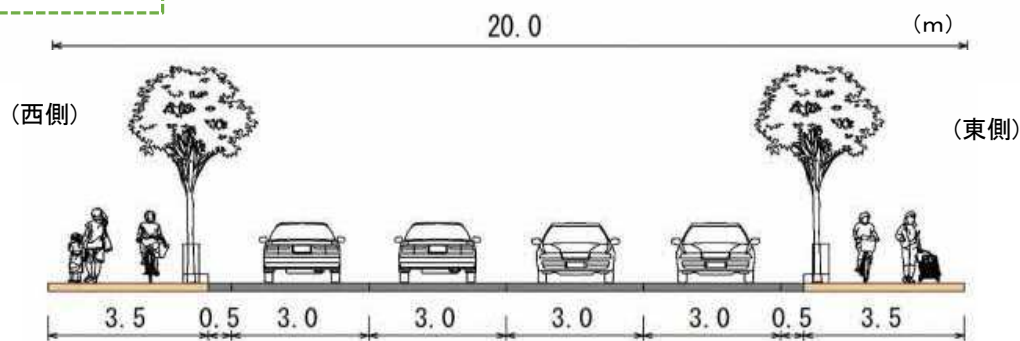
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

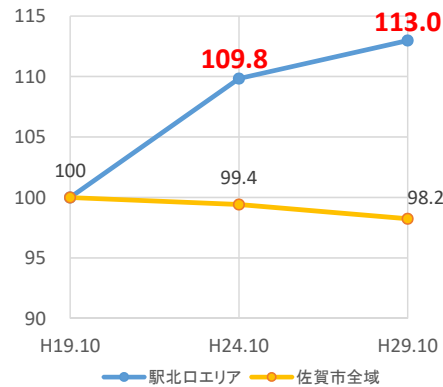
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

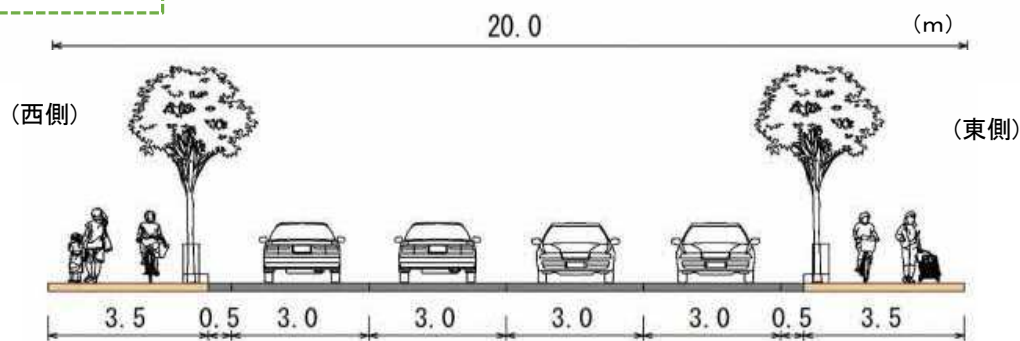
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

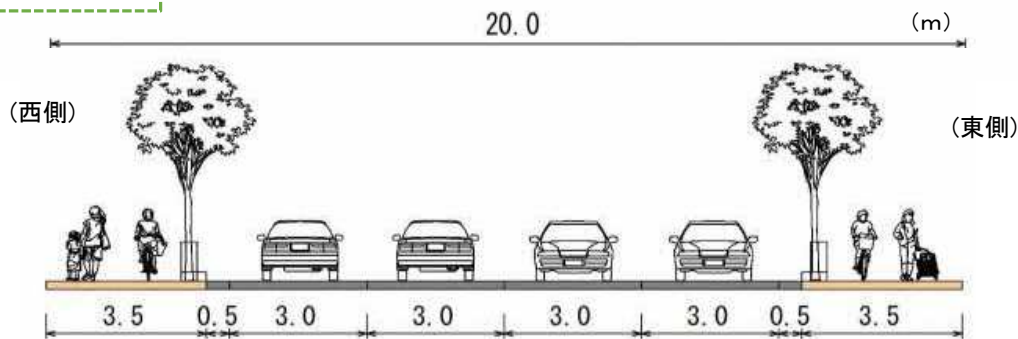
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

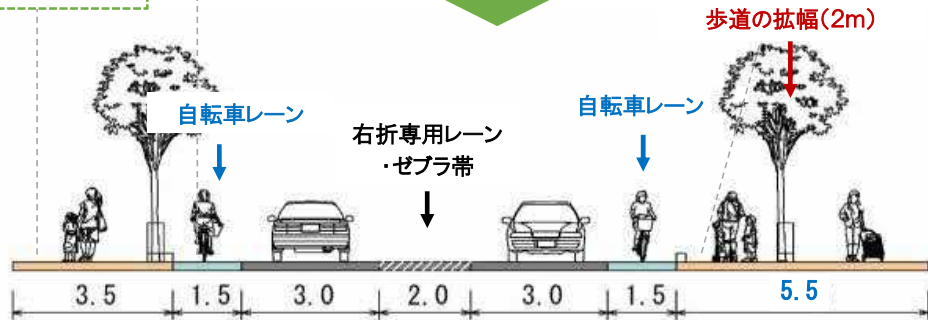
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

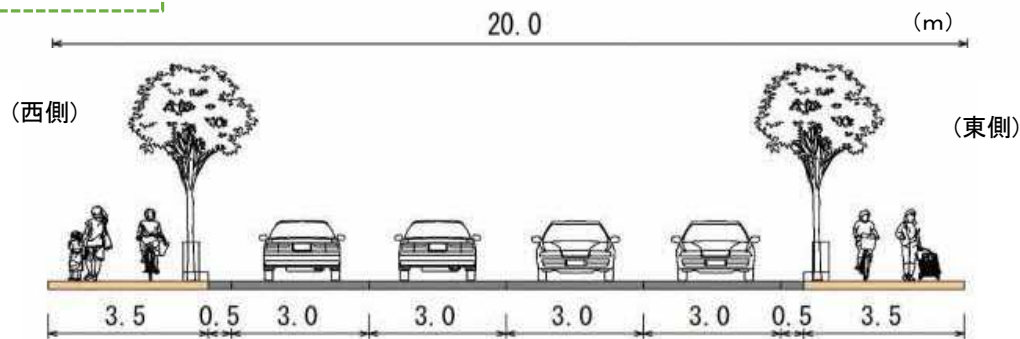
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

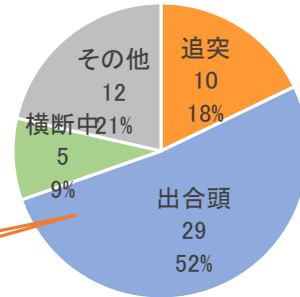
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

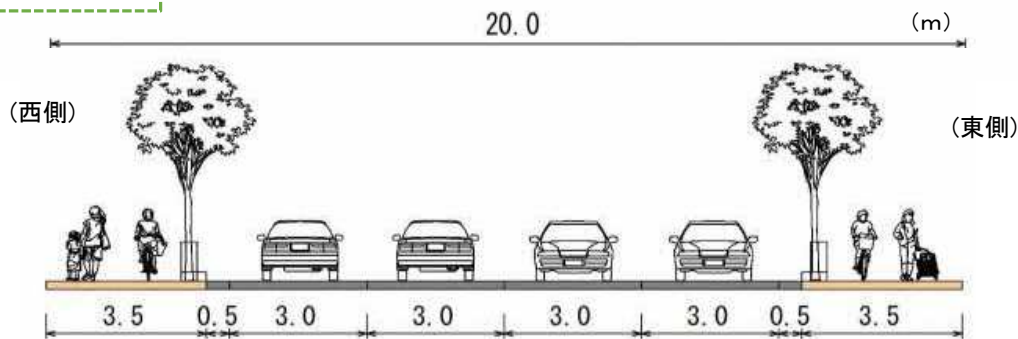
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

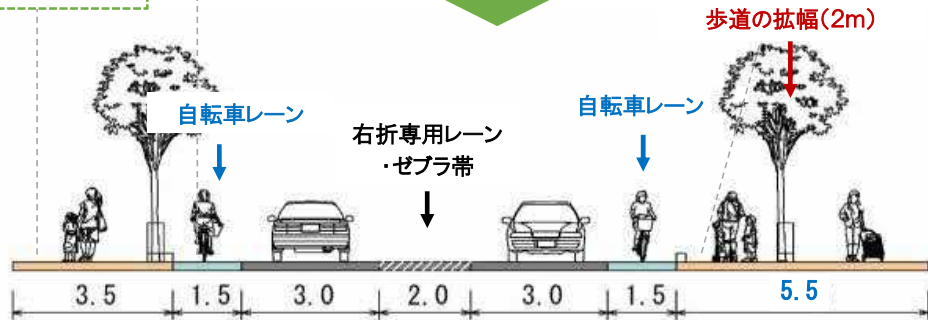
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

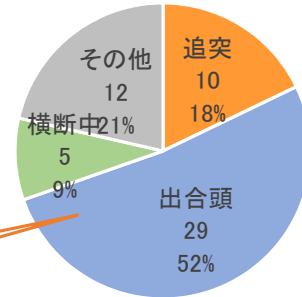
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

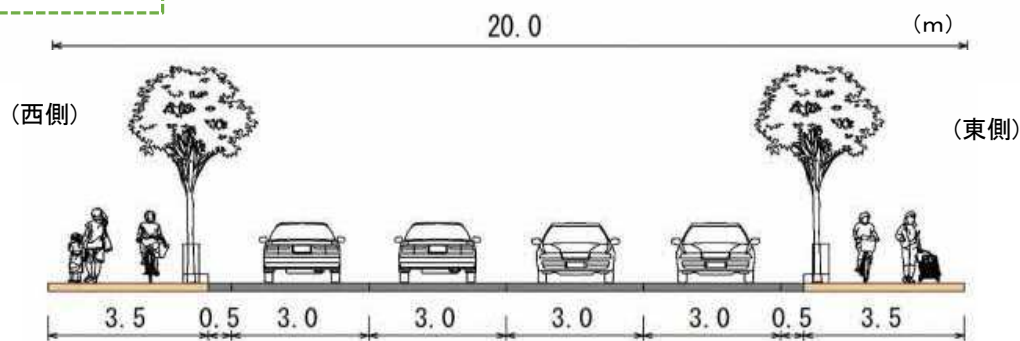
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

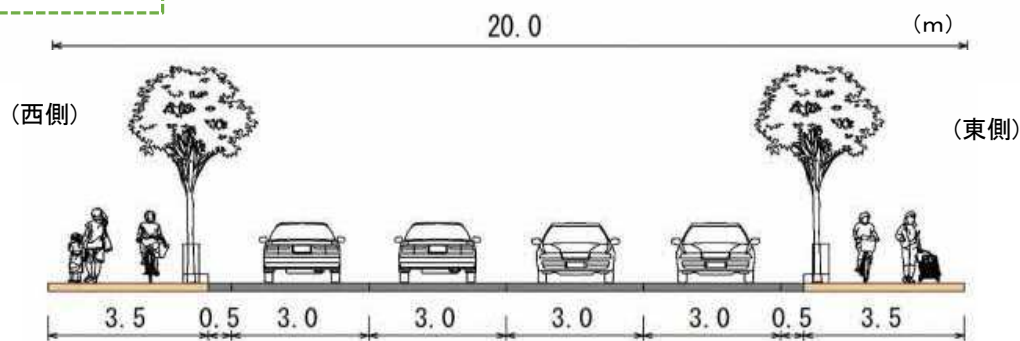
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

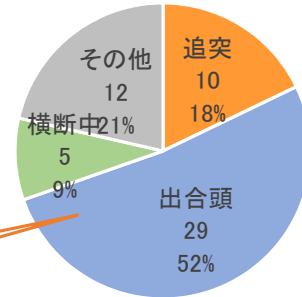
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

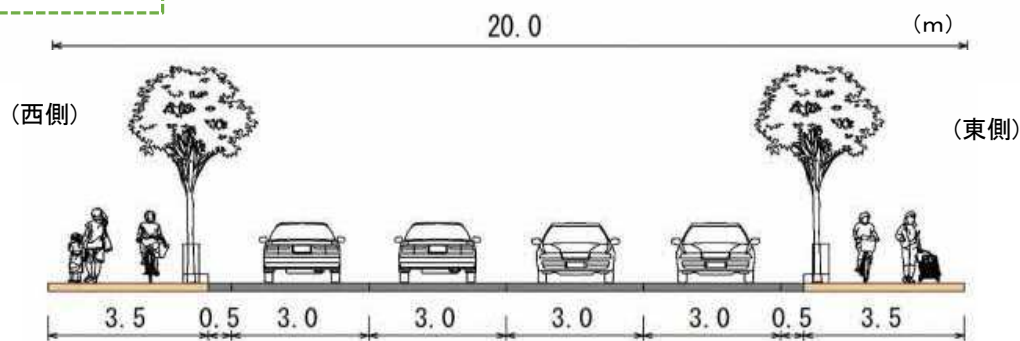
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

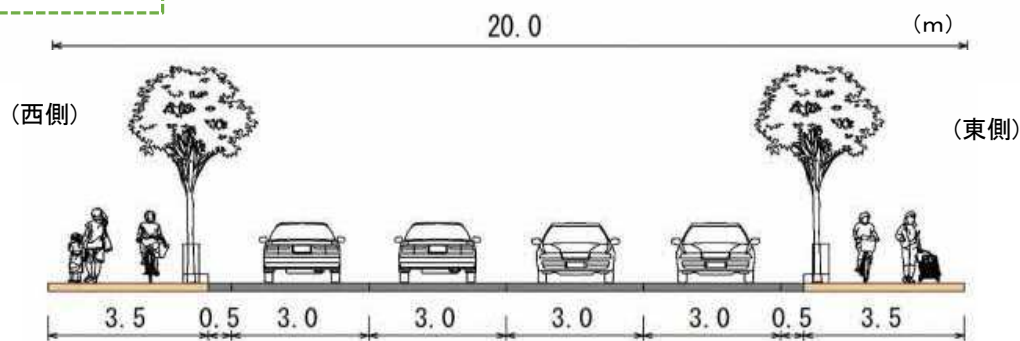
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

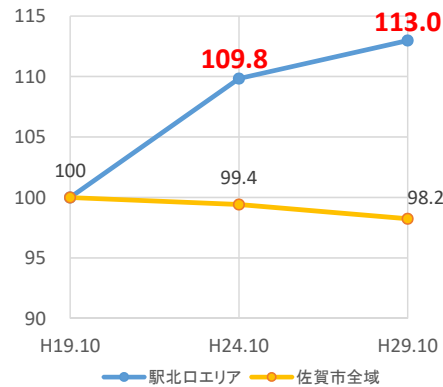
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

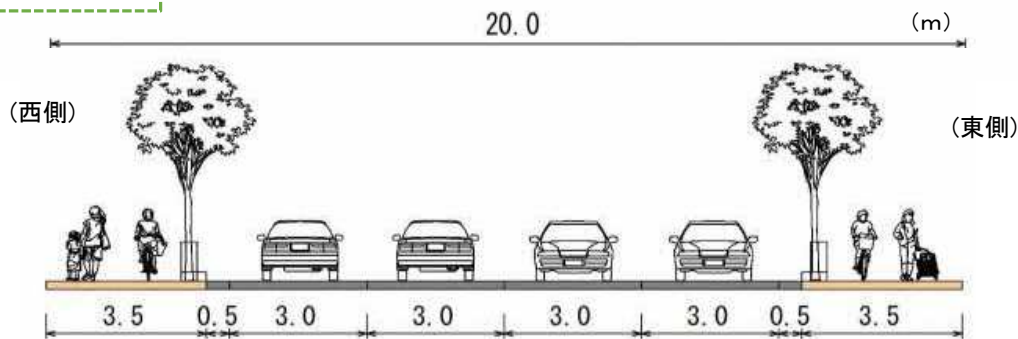
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

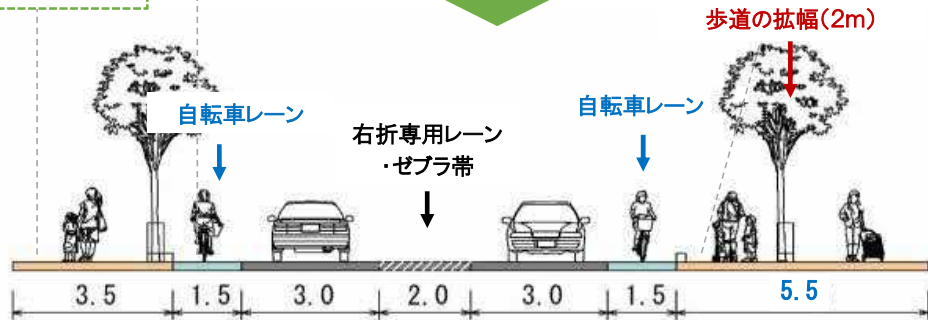
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

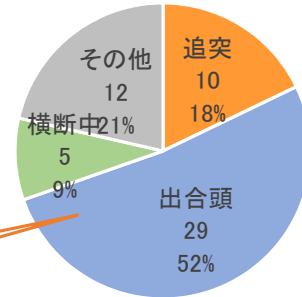
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

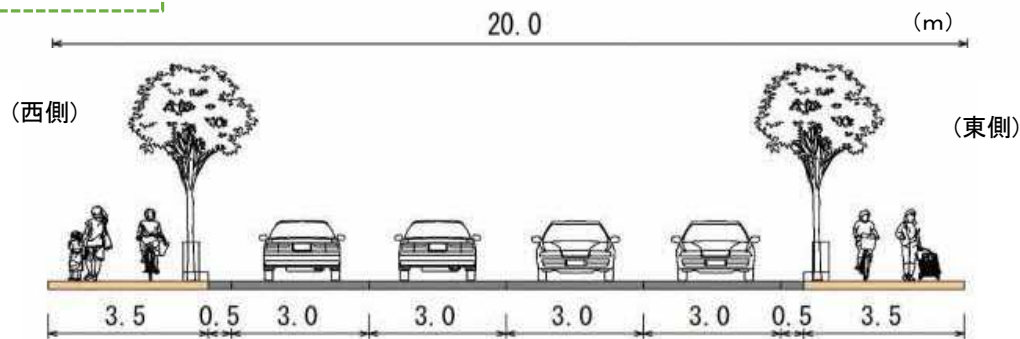
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

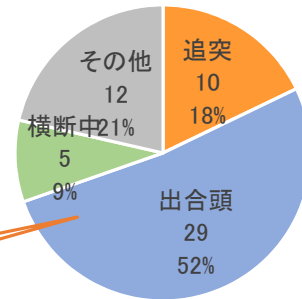
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

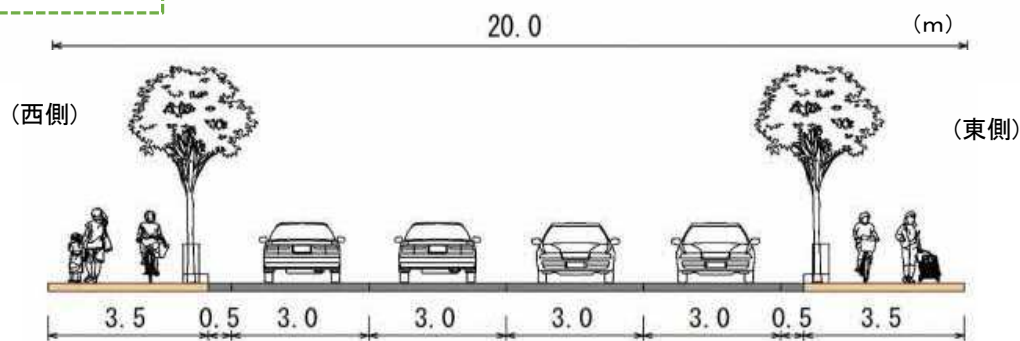
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

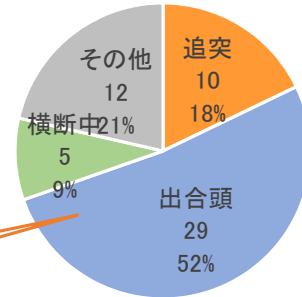
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

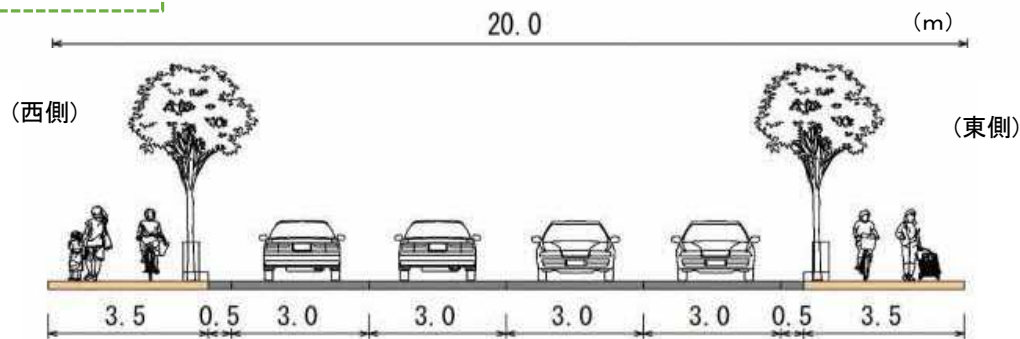
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

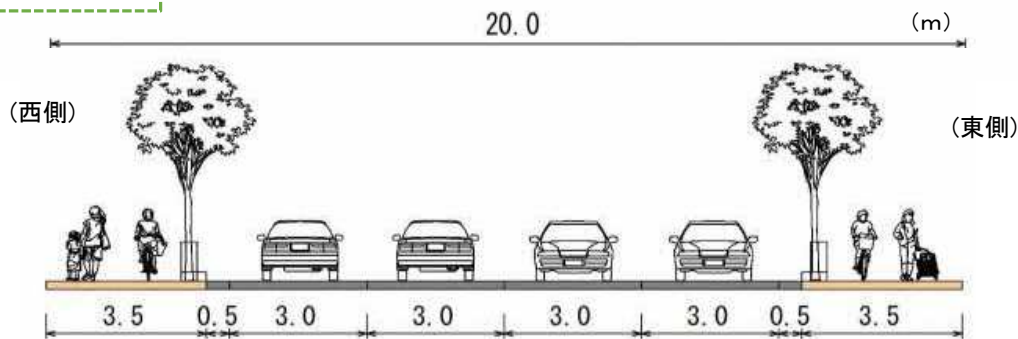
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

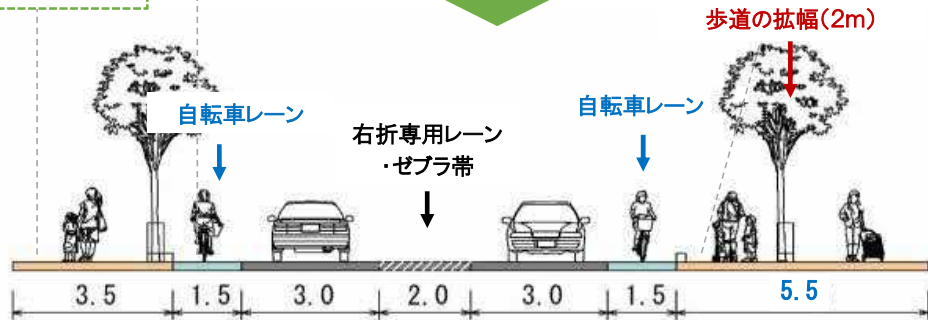
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

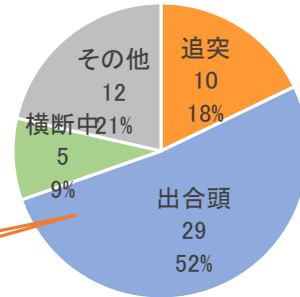
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

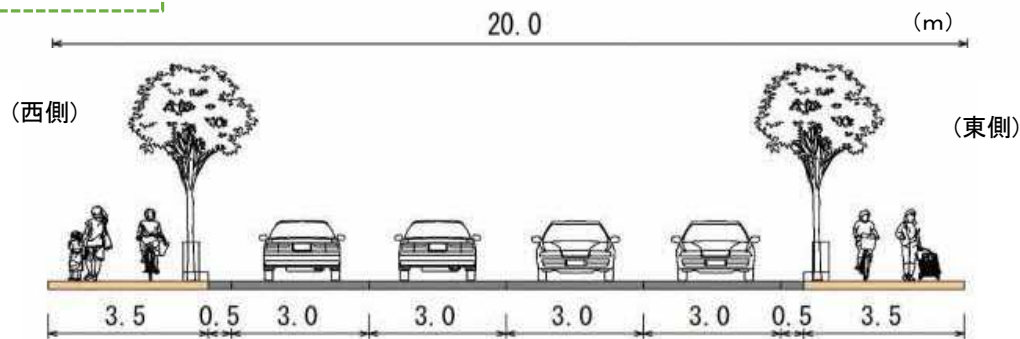
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

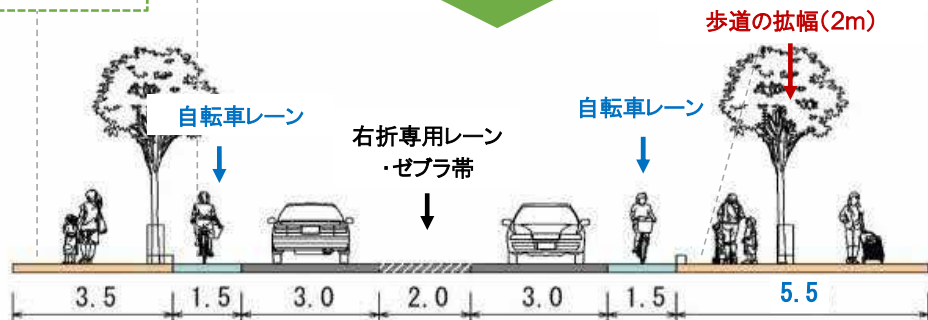
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

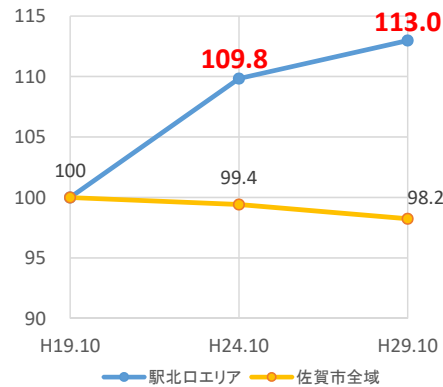
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

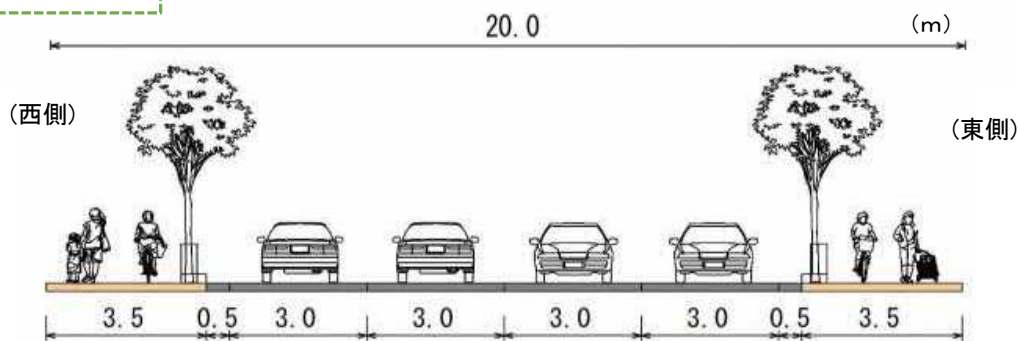
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

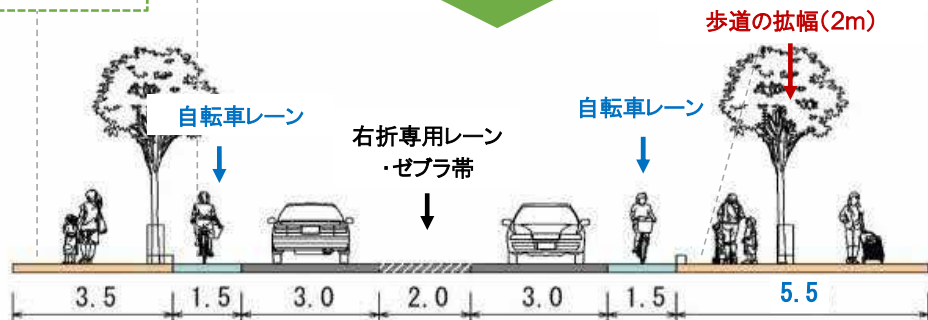
2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

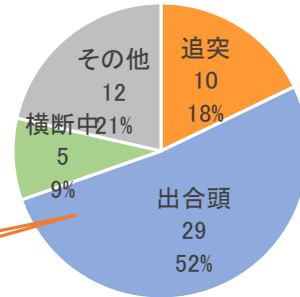
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

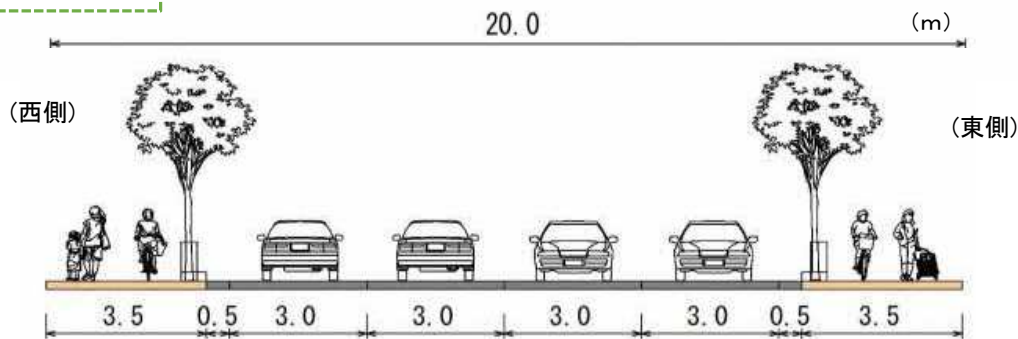
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

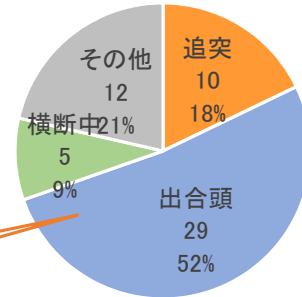
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

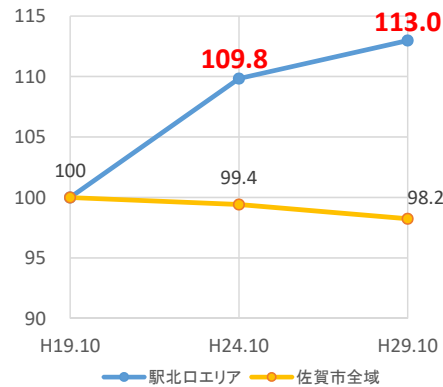
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

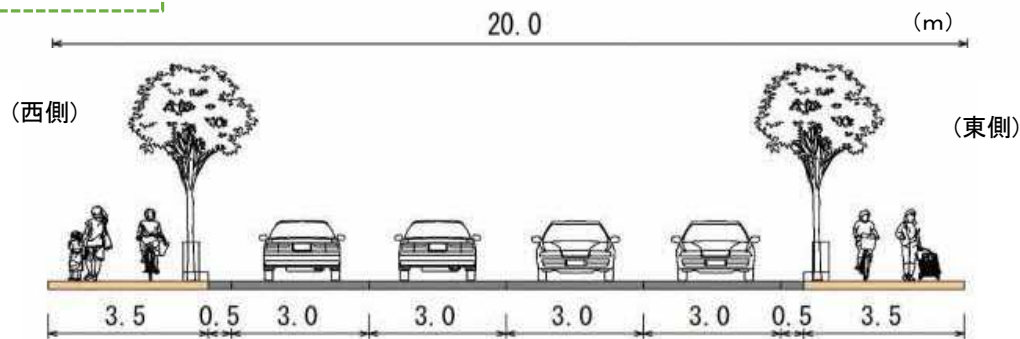
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

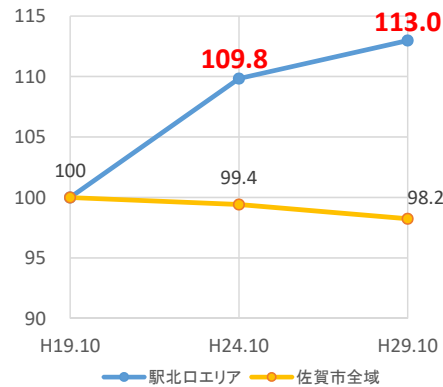
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

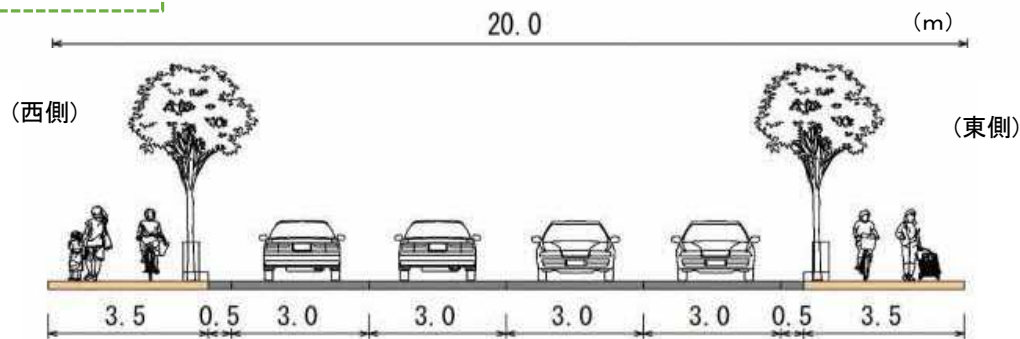
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

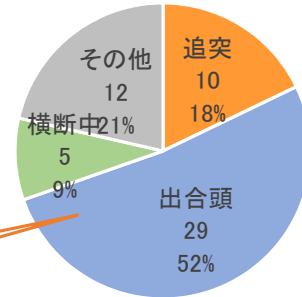
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

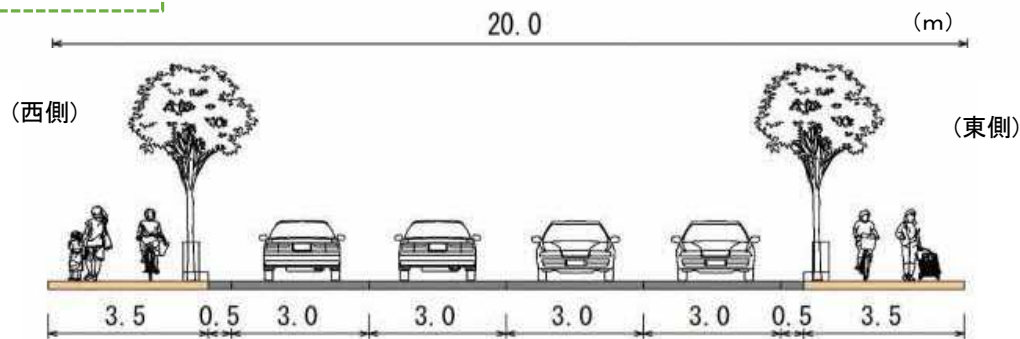
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部

拡幅部

現歩道幅

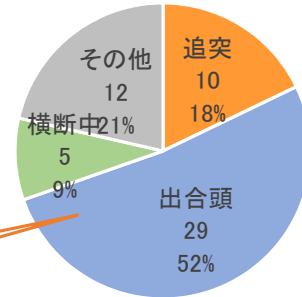
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

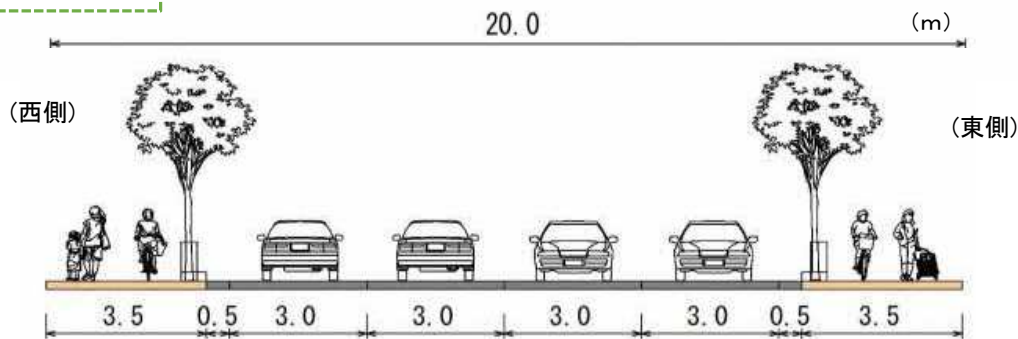
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

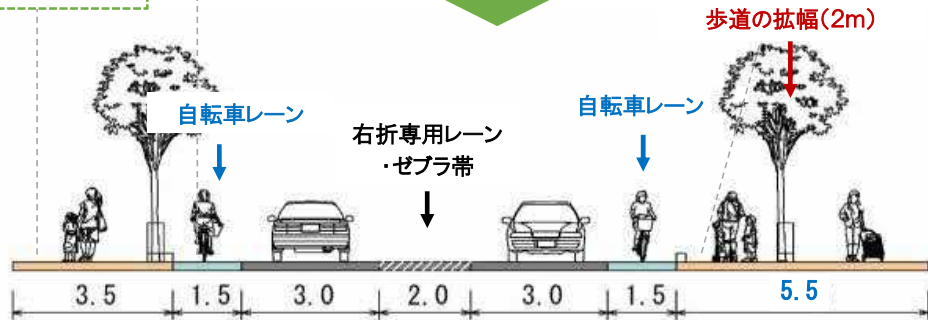
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

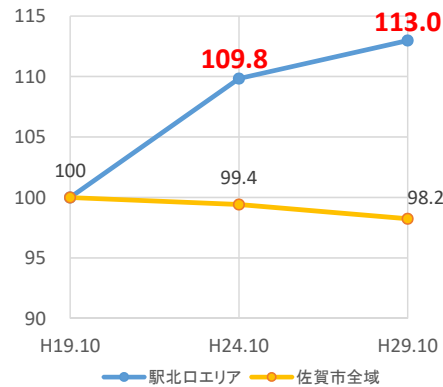
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

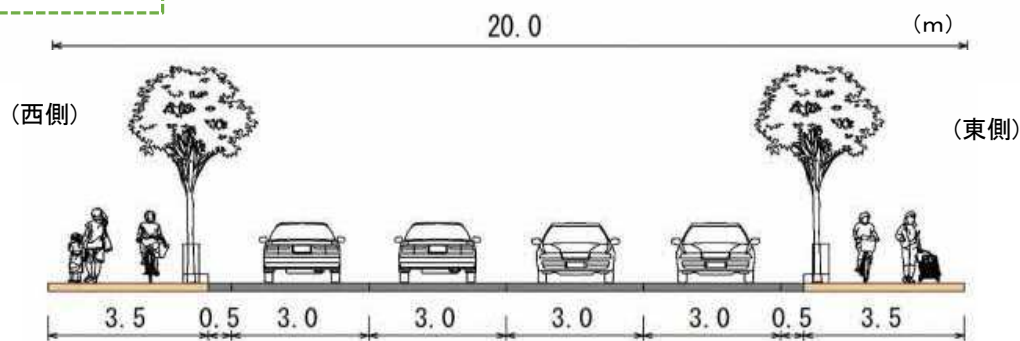
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

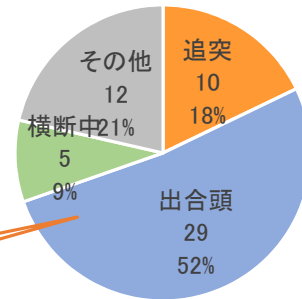
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

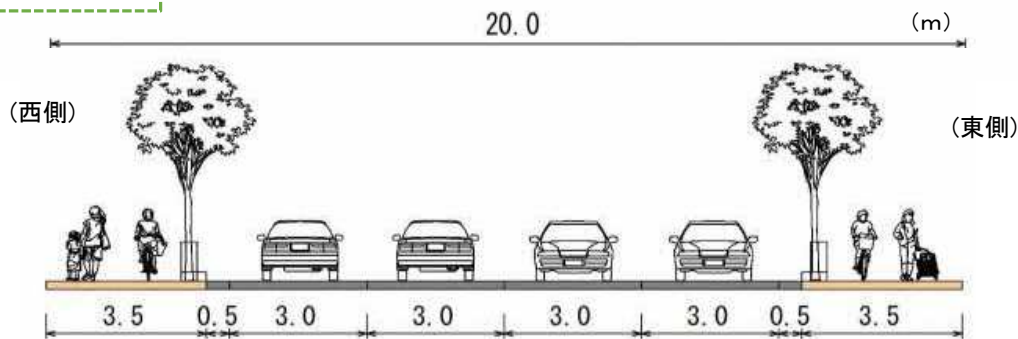
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

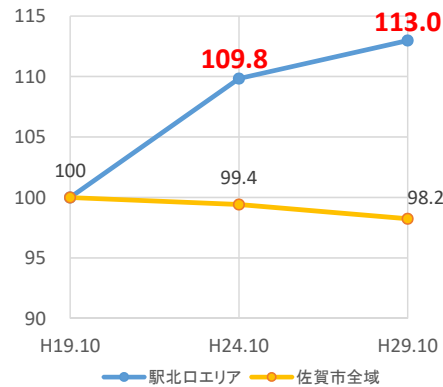
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

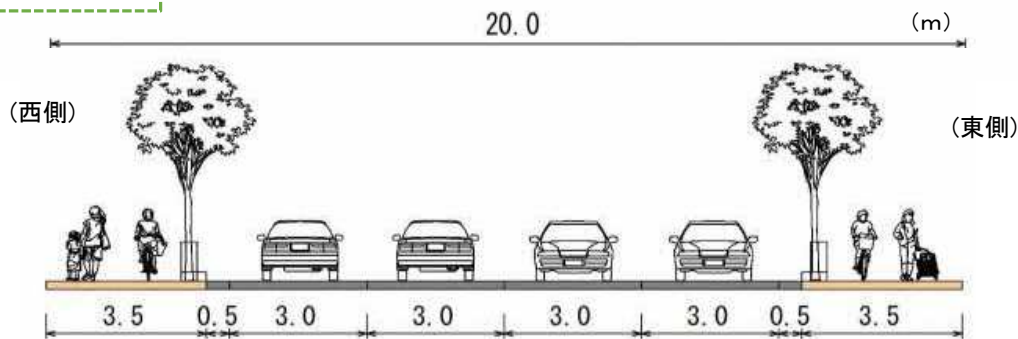
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

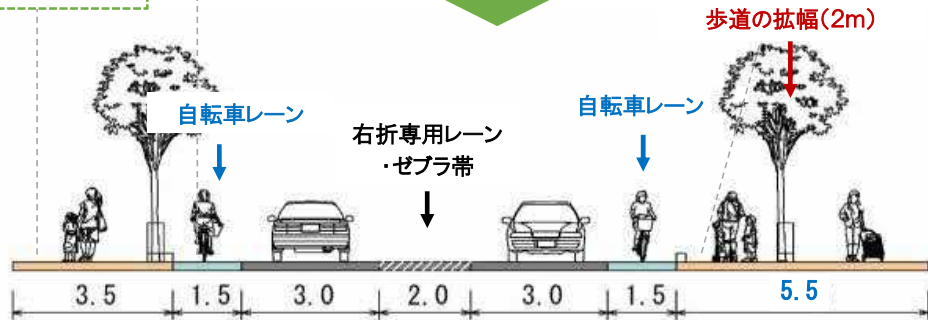
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

➢多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

➢沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

➢地域イベントにおける歩道空間の活用

➢歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

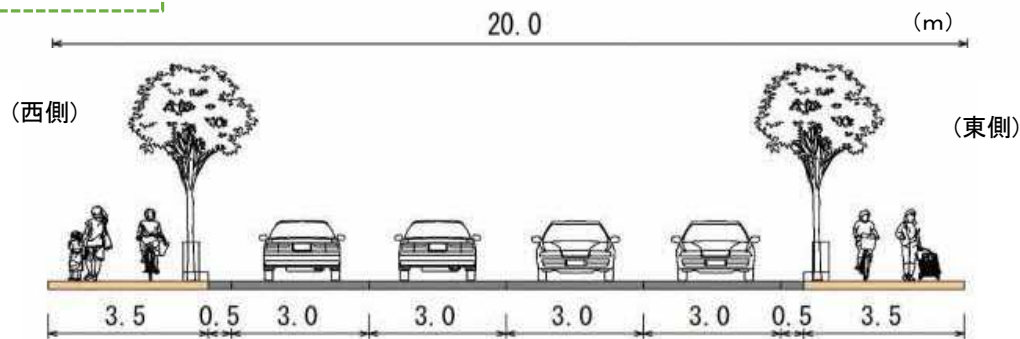
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

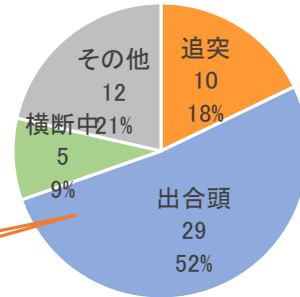
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

※社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

※2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

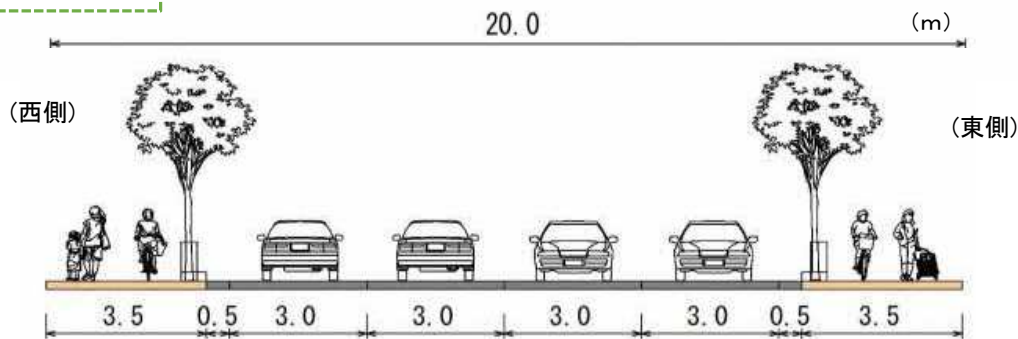
●交通量(周辺道路)

※社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

※自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

※右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

※歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

※歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

※歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

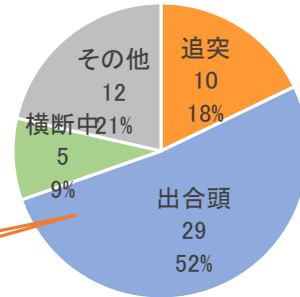
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

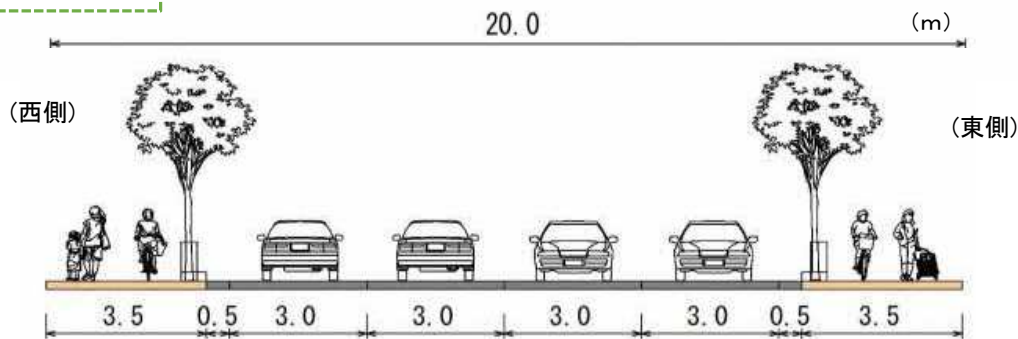
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

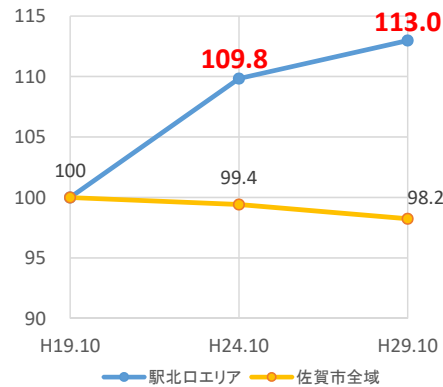
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

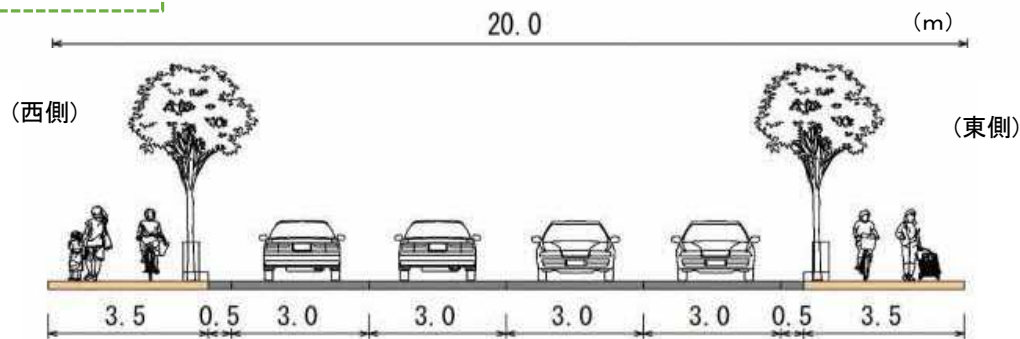
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

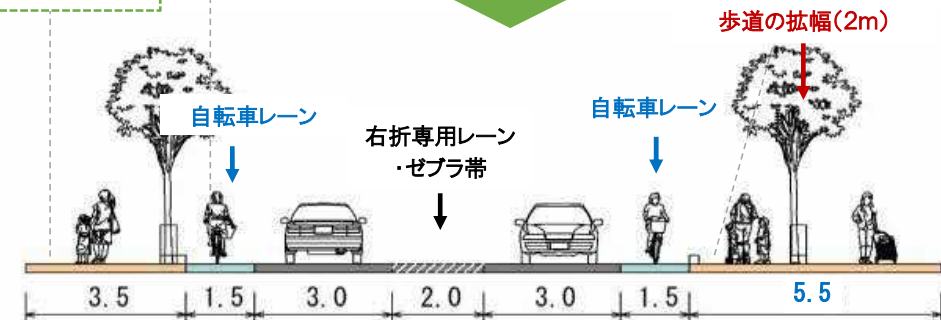
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

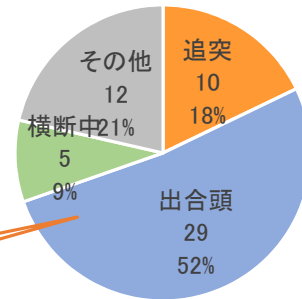
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

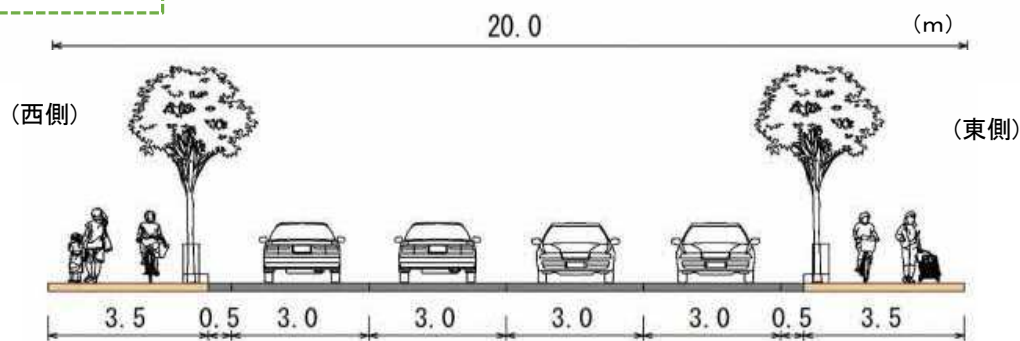
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

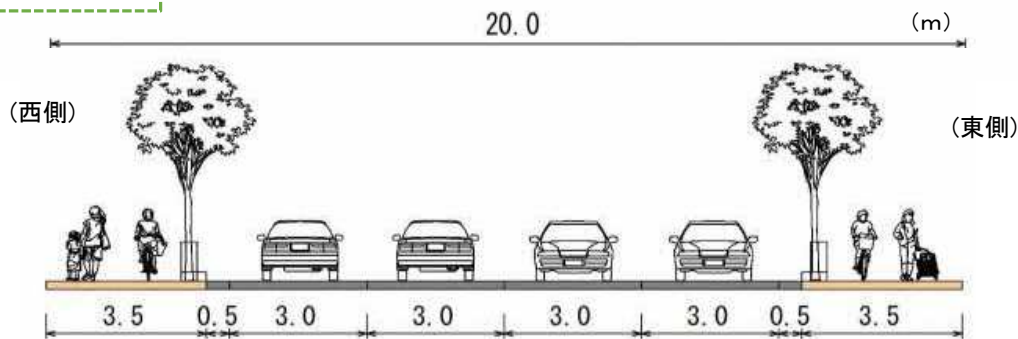
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

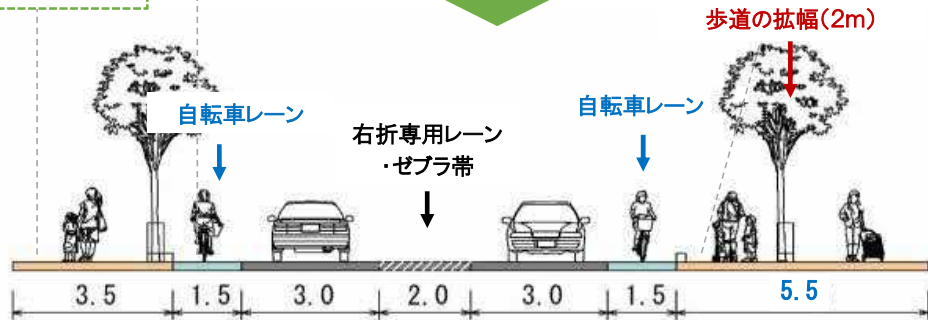
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

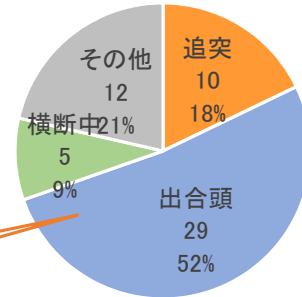
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺的生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

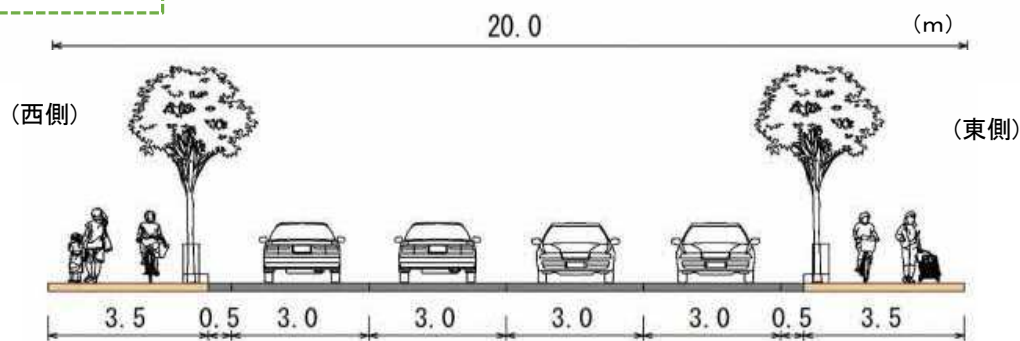
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

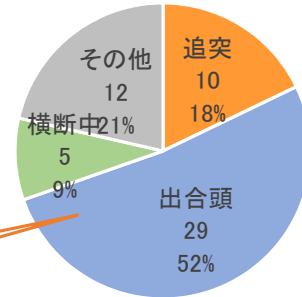
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

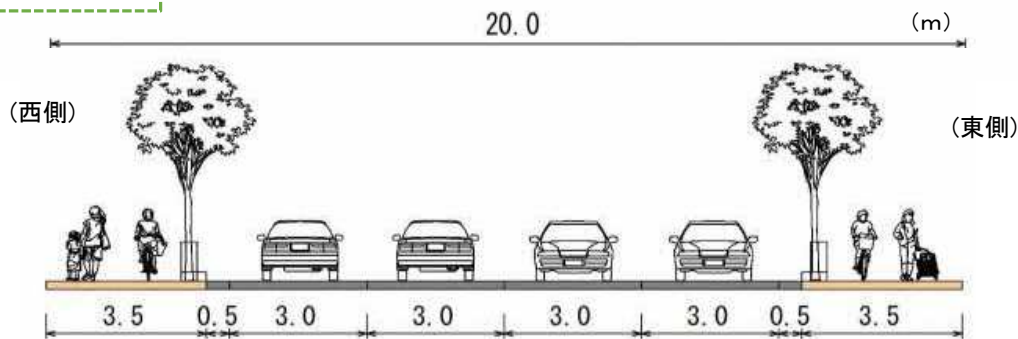
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

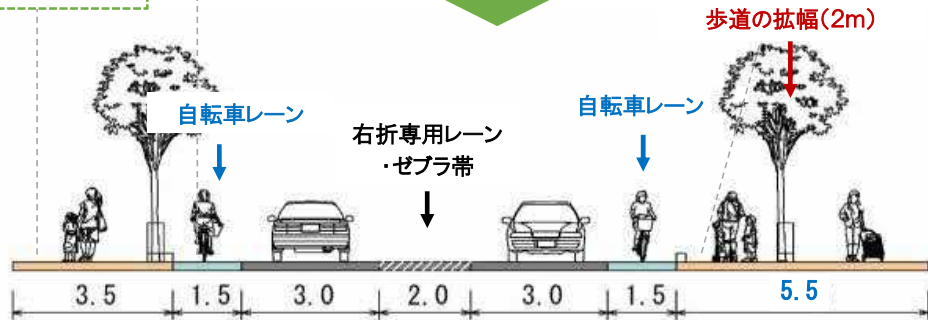
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

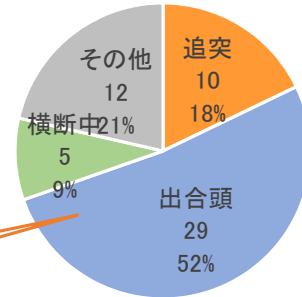
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

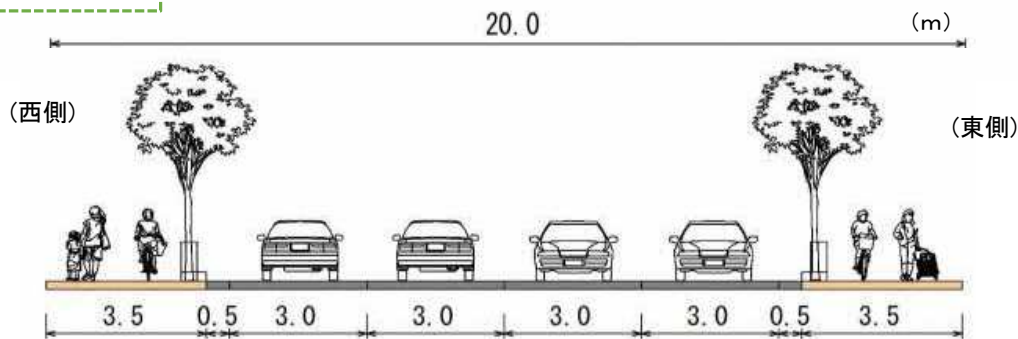
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

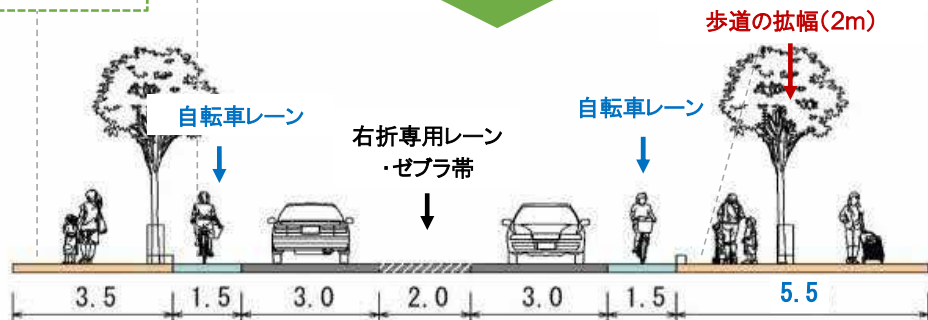
2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

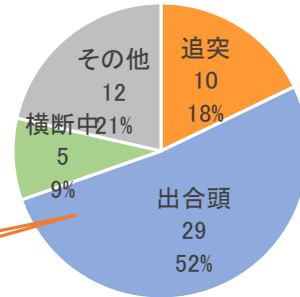
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

■社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

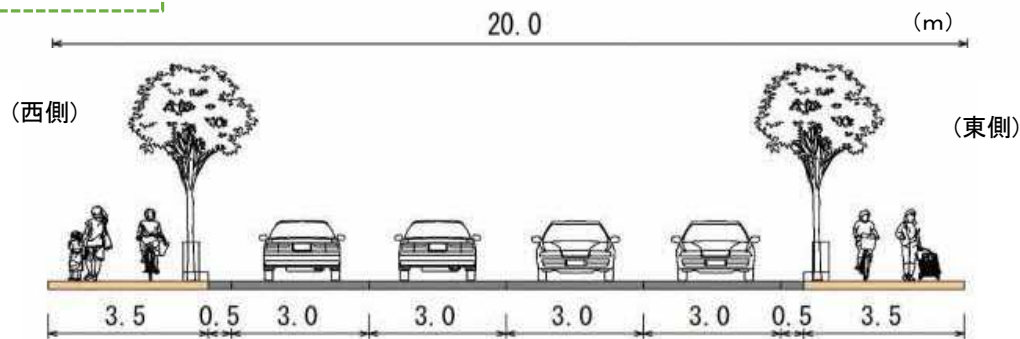
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

■再整備の内容

現在



再整備



■再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

■再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

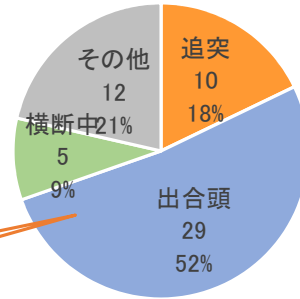
三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

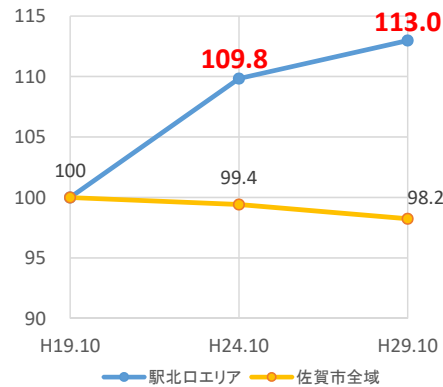
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

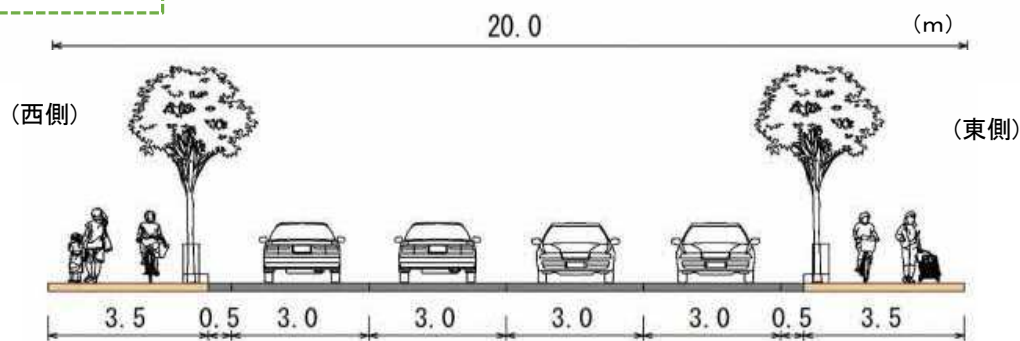
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅

三溝線を活かしたまちづくり検討会（昨年度までの経緯）

■再整備の背景

●市道三溝線の現状と課題

①接触事故や追突事故の危険性が高い。

- ＊自転車と歩行者とが輻輳し接触事故が多い。
- ＊右折レーンがないため 追突事故の危険性が高い。



自転車×自動車: 16件
自動車×自動車: 13件

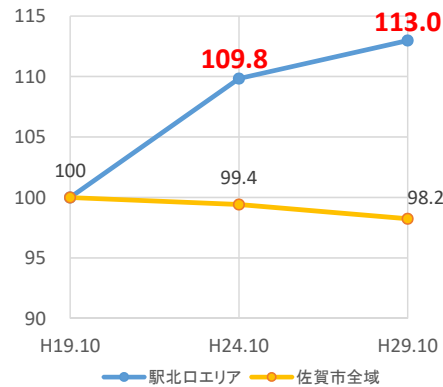
▲4年間の事故発生状況
(H26~H29)

②歩道通行者の増加が見込まれる。

- ＊アリーナ新設に伴う来場者（駅からサンライズパークまでを歩いて移動する方）の増加が見込まれる。
- ＊近年、佐賀市全域の人口は減少しているが、佐賀駅北口エリアでは、増加している。



令和6年度の国民スポーツ大会に向けてSAGAサンライズパークにアリーナ等が建設される。



沿線地区の人口が増加

■対応策(案)

- 課題の解決に向けて、安心安全を確保したうえで、歩きたくなる道路となるような再整備を行う。
(具体的には)
 - ・自転車レーンを設置し、歩行者と自転車を分離する。
 - ・車線を2車線化し、右折レーン及びゼブラ帯を設置する。
 - ・東側の歩道を最大2m拡幅する。

■対応策(案)に対する地元住民の不安

- 車線数の減少により「交通渋滞」が発生するのではないか。
- 周辺の生活道路へ多くの通過車両が流入してくるのではないか。

地元検討会における議論・社会実験による検証

■地元検討会・社会実験等の実施

●市道三溝線再整備検討会による検討

- ＊沿線・周辺自治会、小中高校、警察等による検討会において議論(5回開催)

●社会実験の実施

- ＊時期:平成30年9月12日(水)~9月18日(火)
- ＊内容:①4車線のうち、東側の1車線を自転車道に変更
②残り3車線のうち、中央の車線をゼブラ帯と右折レーンに変更
③周辺道路を含めた交通量調査(本線の渋滞長調査を含む。)
④アンケート調査(周辺世帯、佐賀商高)、街頭アンケート



▲東側に自転車道を仮設



▲沿道で街頭アンケートを実施

社会実験の結果

●交通量(本線)

＊社会実験による変化は見られなかった。

[血液センター前:約9,000台、アパホテル前:約7,300台、駅北交差点約4,300台(12h)]

＊2車線での交通容量1,400台/hに対し、ピーク時(8時台)でも910台/hの通行量だった。

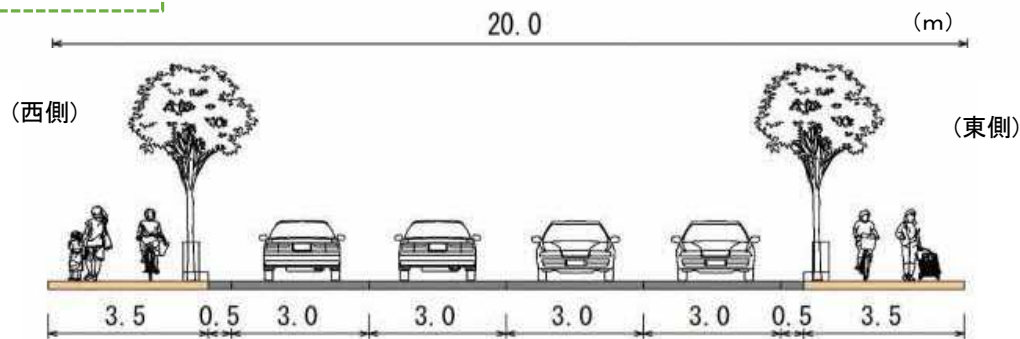
●交通量(周辺道路)

＊社会実験による変化なし[周辺4箇所計測し、2車線化による影響は見られなかった。]

2車線化しても問題ないと判断

再整備の内容

現在



再整備



再整備により期待される効果

道路利用者にとって

●安全性の向上

＊自転車レーンの新設

➡自転車と歩行者の分離による接触事故のリスク軽減

＊右折レーンの新設

➡右折車と直進車の分離による追突事故のリスク軽減

＊歩道の拡幅

➡アリーナ新設等により増加が見込まれる歩行者に向けた動線の確保

地域にとって

●地域活性化の期待

＊歩行者の増加による沿道の賑わい

>多くのアリーナ来場者が歩くことで賑わいが生まれる。

>沿道の消費拡大への期待(将来的な商業施設立地の期待)

＊歩道空間の活用による更なる賑わい

>地域イベントにおける歩道空間の活用

>歩道におけるマルシェ等の開催による賑わいづくり

再整備の状況(工事の様子)

令和2年8月下旬、工事着手



現歩道幅

拡幅部



拡幅部

現歩道幅